



国土交通省

高田河川国道事務所

記者発表資料

令和3年11月30日
配布：新潟県政記者クラブ
新潟県政記者クラブ
上越記者クラブ
その他、専門紙
扱い：配布後解禁

～冬期の生活環境の改善を図ります～ 大雪に備え「上越消流雪設備」試運転を行います

「上越消流雪用水導入施設」は、上越市内の一斉雪下ろし時に雪捨て場となる高田公園外堀に関川の河川水を導水し、効率的に融雪することで、市内の除排雪の円滑化、冬期の生活環境の改善を図ります。また、この施設の稼働に際しては高田河川国道事務所と上越市が連携します。

高田河川国道事務所では、今冬の大雪に備え、下記のとおり試運転を行います。

1 実施日時

令和3年12月6日（月） 9時30分～11時00分

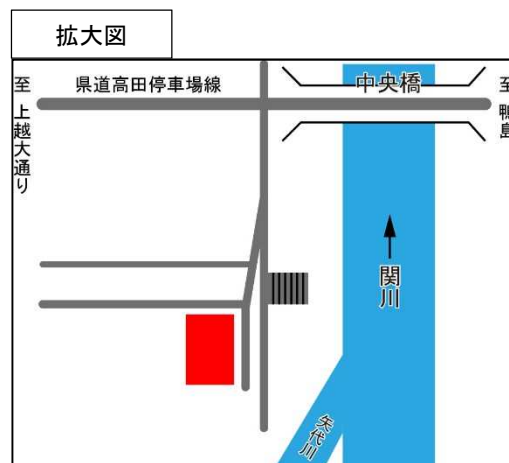
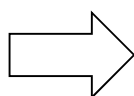
2 実施場所

上越市東城町2丁目先（関川左岸 10.0k付近堤防の住宅側）上越消流雪揚水機場内

3 実施内容

上越消流雪揚水機場内にて、高田河川国道事務所、上越市、委託操作員で、今冬の運転計画を確認します。実際にポンプを試運転し、高田公園南堀への放流状況も確認します。

なお、実施にあたっては、マスクの着用やアルコール消毒液の使用等、新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置をとりながら、必要最小限の人数で行います。



【問合わせ先】

国土交通省 北陸地方整備局 高田河川国道事務所
副所長(河川) 吉田 025-523-3136(代表)
河川管理課長 山崎 025-521-4542(代表)
上越市
道路課 雪対策室長 桐木 025-526-5111(代表)

上越消流雪用水導水施設について

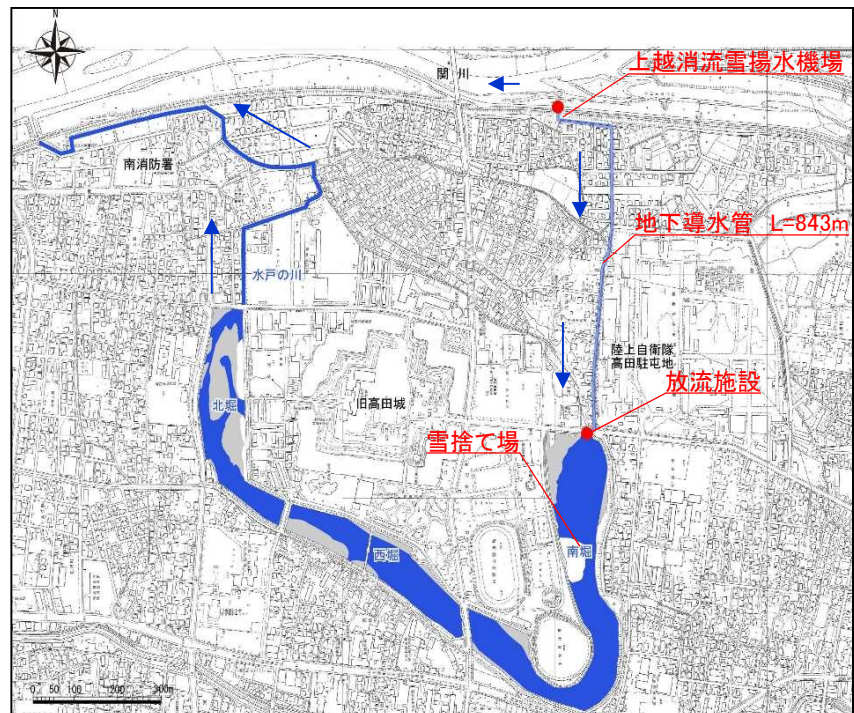
1. 上越消流雪用水導入設備とは

・豪雪地として知られる上越市では、従来より、市街地の雪捨て場として高田公園外堀が活用されてきました。しかし、外堀は水温が低く、水の流れもないため、融雪効率が悪く投雪量も限られていました。そのため、河川敷等へ雪捨ても行っていたものの、融雪洪水の危険が懸念され、また生活道路の排雪効率も悪く一斉雪下ろしによる市民生活への影響が長期にわたり、雪捨て場へ向かうトラックが市街地の主要道路の渋滞をも助長していました。

・そこで、国土交通省高田河川国道事務所では、高田公園外堀に関川の河川水を導水することで投雪による氾濫を軽減させるとともに、関川への投雪量を減少させることで融雪洪水時の危険性を軽減させ、冬期に安全で快適な生活を営むことができるよう施設を計画しました。この施設は「上越消流雪用水導入事業」として、平成10年より工事着手し、平成12年12月10日に竣工しています。

・この施設は、H18、H22、H23、H24、R3の豪雪時に行われた上越市高田地区の一斉雪下ろしの雪捨て場として活用され、市街地の雪処理に大きな効果を発揮しました。今冬も万全の体制で備えます。

【上越消流雪揚水機場】
・ポンプ最大能力 0.75m ³ /s×2台=1.5m ³ /s
・導水管 L=843m φ=1,000mm
・運転実績（運転日数・導水量）
H13 ※試験運転のみ
H18(57日間)1.13~3.10 (導水量：165万m ³)
H22(25日間)1.20~2.13 (導水量：85万m ³)
H23(26日間)1.31~2.25 (導水量：60万m ³)
H24(38日間)1.31~3.8 (導水量：110万m ³)
R3(30日間)1.12~2.10 (導水量：113万m³)
※融雪効率は気温状況等により異なる



【上越消流雪設備の仕様・構成・実績】



【揚水機場】



【投雪場所】

令和3年の設備の効果について

2. 設備の効果

・R3年の冬期は、**約27,000m³（ダンプ1,100台以上）を外堀に投雪**し、本施設で融雪しました。この雪の量は、一斉雪下ろし高田地区（仲町～南本町）の分にあたります。

・**従来より、早期に融雪ができるため**、連続した大雪が発生した場合でも、投雪が繰り返し可能となります。

・また、一斉雪下ろしの場所に近接していることから、**運搬距離が短くなり排雪効率が向上**し、生活道路の早期開通や市街地の渋滞等の緩和など、冬期の生活環境の改善を図ります。



【令和3年の設備稼働状況】



【令和3年冬期の設備稼働効果(外堀内堀の違い)】